

従業員の皆さまへ

働く女性が輝くために 職場でがん対策を

ポストコロナの職域がん対策 — vol.21



ねこ好きの私は、サンリオの人気キャラクター「キティちゃん」も大好きです。

日本のポップカルチャーを代表し、「カワイイ」の象徴でもあります。とくに口がないところも深いメッセージを感じます。

昨年11月1日はキティちゃんの誕生日で、50周年にあたります。この記念日に、フコク生命の「フレンドリーフォレスト」という、サンリオキャラクターに出会える待合スペースをお借りし、サンリオエンターテインメントの小巻亜矢社長と、乳がんと子宮頸がんの啓発について対談動画を撮影してきました。

Working RIBBON×HelloSmile 中川議長とサンリオ小巻社長の対談動画



下記のリンクまたはQRコードより動画をご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=XjqKwP_JXEc



小巻社長は乳がんの経験者でもあります。2010年「ハロースマイル」を立ち上げました。若い女性に増えている子宮頸がんの予防啓発をめざすプロジェクトです。キティちゃんの珍しい横顔のデザインがシンボルで、「見つめる先には、幸せな未来がある」がコンセプト。女性たちに自分の体と健康を見つめなおしてほしいというメッセージを伝えています。

私も経験者のひとり(膀胱がん)ですが、日本人男性のおよそ3人に2人が、女性では2人に1人が、がんに罹患します。

がんは男性に多い病気ですが、50代半ばまでは女性の方が患者数で上回り、30代、40代では女性患者が男性の2倍にもなります。会社員のがん患者に女性が多い理由です。

とくに、子宮頸がんは性交渉に伴うヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因のほぼ100%。セックスデビューの若年化などで、20代、30代にも急増しています。

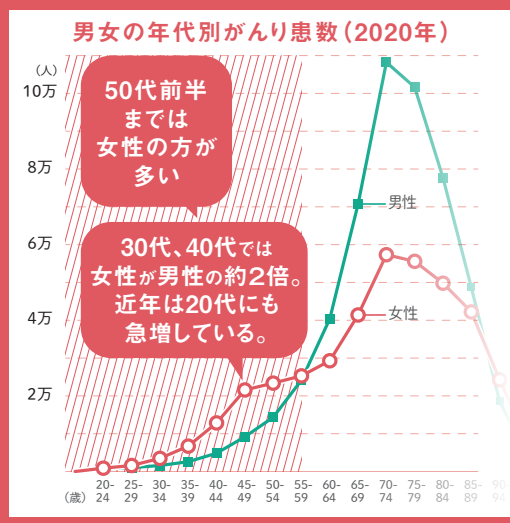
HPVに対するワクチンが2013年から法定化され、小6～高1の女子は無料で接種できます。しかし、「副反応」をめぐる騒動などで、接種率は低迷しており、残念です。さて、小巻社長との対談では、乳がんと子宮頸がんでの早期発見の重要性やHPVワクチンへの理解の促進などについて話し合いました。

私が議長を務める、厚生労働省委託事業「がん対策推進企業アクション」でも、女性がんの対策に特化した「Working RIBBON」プロジェクトを進めています。

子宮頸がんは乳がんは早期発見によって高い治癒率が期待できる病気です。しかし、企業アクションの調査でもこの2つのがんの検診受診率の低さが目立ちます。

男性が55歳までにがんになる確率は5%もありません。男性中心で定年が55歳だった昔の日本の会社では、がんは他人事だったわけです。しかし、女性が65歳までにがんになる確率は17%にも上ります。働く女性がもっと輝くためには会社での「女性がん対策」が欠かせません。

会社員のがん患者には女性が多い



出典：厚生労働省「令和2年全国がん登録 罹患数・率 報告」

女性がん対策と早期発見の重要性



中川 恵一（がん対策推進企業アクションアドバイザーボード議長）

東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授、厚生労働省 がん検診のあり方に関する検討会構成員、がんの緩和ケアに係る部会座長、文部科学省がん教育のあり方に関する検討会委員など。

東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室専任講師、准教授を経て現職。緩和ケア診療部長、放射線治療部門長などを歴任。著作には「がんのひみつ」「コロナとがん」などがんに関する著書多数。日本経済新聞でコラム「がん社会を診る」を連載中。



YouTube

「オトナのがん教育」講座「教えて中川先生!がんって何?がんになっても働けますか?」

好評配信中!